

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22 年 3 月 18 日

【評価実施概要】

事業所番号	4071501722		
法人名	医療法人 富松記念会		
事業所名	グループホーム いろは		
所在地	福岡県大牟田市大字三池163番地 〒837-0921 (電話) 0944-53-3168		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成22年3月17日	評価確定日	平成22年4月15日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

老人保健施設等を運営する医療法人が、5年前に開設したホームである。敷地内に地域交流センターを併設し、高齢者向けの予防教室を始め、活発な地域活動が開催されている。高齢化に伴う利用者の生活や介護ニーズへの対応に加えて、子供や孫から見た利用者の姿等にも配慮した支援が行われている。できれば部屋にポータル机を常設したくないという利用者の気持ちに沿って、職員が意見を出し合い、それに代わる対応策を実践している。職員数や勤続年数が長い職員が多いのに加えて、チームワークも良く、理念である「居心地の良さ」を目指した個別支援の充実が図られている。また、愛情ネットや認知症サポート活動等、行政と地域との協力支援体制も年々充実している。今後とも、地域高齢者支援の拠点としての展開が期待できるホームである。

【情報提供票より】(平成 22 年 2 月 6 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	17 人
		非常勤	1 人
		常勤換算	17.6 人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨耐火構造 造り		
	1 階建ての～	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	49,000 円	その他の経費(月額)	実費	円
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(円)	有の場合償却の有無	有	
	無		無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり	1,050 円程度		

(4) 利用者の概要(2 月 6 日現在)

登録人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護 1	8 名	要介護 2	8 名		
要介護 3	0 名	要介護 4	1 名		
要介護 5	1 名				
要支援 1	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 85.2 歳	最低	79 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人富松記念会 三池病院神経科・内科・精神科
---------	--------------------------

重点項目

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果について、運営推進会議や家族会、職員会議にて報告し、改善についての協議を行うなど質の向上への取組みがある。この過程で、個別支援の充実や非常災害時の協力体制等の成果がみられた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の外部評価にあたり、評価項目を回覧し、職員会議にて話し合いながら自己評価を実施する等、職員全員がかかわっての取組みが見られた。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 利用者及び家族、市議員、民生委員、あんしん相談委員、地域のガソリンスタンド経営者、地域包括支援センター職員、地域交流センター長、大牟田市職員の参加のもと、2ヶ月毎に開催している。会議では、ホーム便りを提示しながら状況や行事の説明、外部評価の結果報告、改善案の提示、公民館活動や地域行事の紹介、災害時の協力体制の依頼等が協議され、サービスの質の向上や運営に活かされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 契約時に苦情窓口や苦情対応体制について説明している。実際の相談や苦情は、運営推進会議時や家族会時及び個別面談時に申し出る機会を確保している。実際は、個別面談の際に申し出があることがほとんどである。意見や苦情については、内容に応じてその場での回答や、職員会議で検討した後回答する等の取組みがある。この過程において、防犯対策としてのセンサー設置等の成果が見られた。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 法人全体での夏祭り等の催しや地域の盆踊り等の行事など、地域と交流する機会がある。ホームと併設する地域交流センターでは、毎週予防教室等を開催し、地域高齢者と共に体操や昼食、行楽を楽しむなど頻りに交流している。また、保育園児や高校生ボランティアの受入れ等、幅広い世代との交流の機会も確保している。地域交流の様子は法人全体の広報紙にも掲載されている。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	開設にあたり、職員全員で話し合い、ホーム独自の理 念を作り上げている。「居心地の良さ」をキーワードに、 住み慣れた地域で安心できる暮らしを支援することを 理念の柱としている。理念と努力目標は各ユニットで掲 示し、パンフレットにも掲載している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念を具体的にどう実施していくかについ ては、努力目標としてあげ、理念の実践を具体化して いる。各ユニットでの掲示やパンフレットに記載すること で、職員や利用者、家族が自然と目にしながら実践で きるように努めている。理念にある、利用者それぞれの 「居心地の良さ」について、職員が意見を出し合い、 支援を通じて実践している様子が伺えた。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	法人全体での夏祭り等の催しや地域の盆踊り等の 行事など、地域と交流する機会がある。ホームと併設す る地域交流センターでは、毎週予防教室等を開催し、地 域高齢者と共に体操や昼食、行楽を楽しむなど頻繁 に交流している。また、保育園児や高校生ボランティアの 受入れ等、幅広い世代との交流の機会も確保してい る。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果について、運営推進会議や家族 会、職員会議にて報告し、改善についての協議を行う など質の向上への取り組みがある。この過程で、個別 支援の充実や非常災害時の協力体制等の成果がみ られた。今回の外部評価にあたり、評価項目を回覧 し、職員会議にて話し合いながら自己評価を実施する 等、職員全員がかかわっての取り組みが見られた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市議員や地域の給油所スタッフを含む関係者を招いて2ヶ月毎に開催している。会議では、ホーム便りを提示しながら状況や行事の説明、外部評価の結果報告、改善案の提示、公民館活動や地域行事の紹介、災害時の協力体制の依頼等が協議され、サービスの質の向上や運営に活かされている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には行政から複数の出席がある。また、官民協働での研修や徘徊模擬訓練、長寿社会推進課主催の実地研修に参加し、あんしん介護相談員や社協の傾聴ボランティアの受入れを行っている。併設する地域交流センターでも市のイベントが定期的実施されており、密に連携をとっている。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	計画的に職員への研修を実施し、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持っている。利用者・家族には、契約時に説明を行うと同時に、市職員や地域包括支援センター職員による制度の説明等が実施されている。現在、活用事例があり、行政と連携して適切に支援している。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時や電話連絡にて、心身の状況や健康状態、暮らしぶり、金銭管理等詳細な報告を行っている。毎月、請求書と一緒に、利用者毎の近況報告書と、行事やイベント等を掲載したホーム便りを配布している。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情窓口や苦情対応体制について説明している。実際の相談や苦情は、運営推進会議時や家族会時及び個別面談時に申し出る機会を確保している。意見や苦情については、内容に応じて、その場での回答や、職員会議で検討した後回答する等の取り組みがる。この過程において、防犯対策としてのセンサー設置等の成果が見られた。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職事例が少なく、開設以来の職員が多く勤務している。日頃からユニット同士の連携を図ることで、行事や職員の病欠等の緊急時、職員の入れ替わりや異動の際にも、円滑に標準的なサービス提供や個別支援が可能な体制にある。調査当日も、元職員が来所する等、離職等により、距離は開いても関係を継続できる支援体制や雰囲気が見受けられた。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用については、年齢や性別、資格や経験の有無等による制限は設けていない。本人の意欲に加えて、理念への共感や適性等を重視している。就職後は、定期的に個人面談を行い、職員のスキルアップや職場での問題点・課題等を話し合う機会を確保し、職員の意見や自己目標を実現しやすい職場環境に配慮している。また、有給休暇の取得状況等からも、管理者及び職員同士が互いの権利を認めながら働きやすい環境作りに取り組んでいる状況が伺えた。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人の全体研修やグループホーム協議会の研修に参加し、虐待等、高齢者に関する人権問題について学ぶ機会を確保している。		内外の研修会等を利用して、人権について学ぶ機会を確保されています。現在取り組んでおられる研修テーマを更に掘り下げて人権意識をより高めると同時に、高齢者に留まらない様々な視点や対象を取り入れた人権学習が展開されることを期待します。
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修については、法人全体で計画的に実施している。外部研修は、職員の希望を聞きながら、均等に参加の機会を確保できるよう、適切に振り分け、研修受講後は受講報告を行い、新しい知識や情報を共有する取組みがある。自己研鑽については、理念の努力目標としても定めており、能力開発シートを活用して、スキルアップ等に取り組んでいる。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政主催の地域事業者連絡会やグループホーム協議会に参加しており、管理者、職員共にそれぞれの研修や徘徊模擬訓練等に参加し、交流を深めている。職員間の情報交換や相互訪問等、地域の他事業所と連携して、サービスの質の向上にむけての協力体制が伺えた。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前のホーム見学を勧めている。事情により本人の来所が困難な場合は、管理者等が本人を訪問し、本人と関係者から収集した情報を全職員で共有し、具体的な支援についての協議等を行っている。面会等、家族とも協力しながら、精神的な安定と馴染みの関係作りに取り組んでいる。他の利用者との関係も同様に、徐々に馴染んでいけるように支援している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から、畑の作り方や昔の風習について話を聴くなど、学びながら、共に支えあい、笑顔で、楽しく過ごしていくことを念頭において支援している。この支援は利用者同士の関係性にも反映されており、支えあいながら日々の暮らしを楽しむ様子が見受けられた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	契約時に得た情報や日々のかかわりを通して、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努め、センター方式に記録している。利用者ごとの担当職員が中心となり、カンファレンス時に職員全員で意見を出し合い、利用者の視点に立って検討している。また、利用者の言葉や行動、表情の観察、分析などの記録を通して、情報の共有化に努めている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントやモニタリング及び家族の意向、認知症専門医の助言等を基に、担当職員と計画作成担当者が原案を立案し、カンファレンスで協議し介護計画を作成している。また、事例検討を繰返し、職員が意見を出し合い、詳細な支援方法の共有と実践に努める等、チームワークが活かされた計画作成の状況が見受けられた。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	毎日の申し送りやカンファルスにて利用者の情報交換 や支援内容の確認を行い、状況の変化に応じて、適 宜の見直しを行っている。3ヶ月毎のモニタリングとサービス 担当者会議を開催し、プラン内容の検討・評価・見直し が実施され、利用者個々の情報の共有と状況に応じ た計画の再作成に取り組んでいる。		職員間のコミュニケーションがよくとれ、情報の交換や周 知等、チームワークが活かされた支援が見受けられまし た。この情報交換や周知、検討の機会は、利用者支 援の重要なプロセスの一つであり、チームケアの根幹であ ると思われます。全利用者に対して毎月の定例確認 と記録への取組みに期待します。
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	医療連携体制による緊急時の対応や往診、訪問看 護の利用、受診対応や外出・外泊への支援など、柔 軟に対応している。また、地域交流センターを併設し、 市のイベントや地域活動に場所を提供したり、地域住民 に駐車場を貸す等、可能な限り柔軟に対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	契約時にかかりつけ医の継続と協力医療機関の利 用について相談し、本人・家族の意向に沿って支援し ている。協力医や歯科による定期的な往診・受診及 び緊急時対応が可能である。皮膚科や眼科等につい ても家族と協力しながら受診しており、地域の各専門 医療機関と連携しながら適切に支援している。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	契約時、重度化等への対応指針を説明し、予めの 同意を得ている。利用者本人の意向についても、日 常的ななかかわりを通じて思いを汲み取り、センター方式 に記録している。身体状況の変化に伴い、その都度 協議し、重度化に伴う意思の確認書を作成し、全関係 者を交えて方針を共有する等の取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	職員への基本的な接遇や言葉かけ、記録における 表現の指導等は、入社時や法人研修時、能力開発 シートの面談等にて適宜行っている。調査当日も、利 用者を尊重しながら、温かく優しい対応が見受けられ た。個人情報保護についても法人規程を設け、研修 等で意識向上を図り、個人記録等の一括管理や漏洩 の防止に努めるなどの取り組みがある。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	大まかな一日のスケジュールはあるものの、その時そ の時の本人の気持ちを尊重し、利用者のペースにあわ せて対応している。理念である「居心地の良さ」を実践 する為に、利用者それぞれの「スペース=居場所」と 「ペース=速度」が、生活の中で確立できるように支援 している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	ユニット毎に栄養士が在籍しており、メニュー作成や食材 の調達、調理の準備や後片付け等を他の職員や利 用者と協力して行っている。利用者の好みや食べや すさ、利用者の残存能力等を考慮し、生活の中で食 事が楽しく美味しく、活力を引き出す源になるように支 援している。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	毎日入浴できるように準備している。夜間帯での入 浴や湯温等、利用者の希望を尊重しながら支援して いる。あまり入浴を好まれない方には、タイミングを見 計らっての声かけ、シャワー浴や清拭等を実施し、定 期的に清潔保持の機会を確保している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	利用者一人ひとりの生活歴や出来ることなどを把握 し、介護計画に反映させ支援している。具体的には、 料理や掃除、ビデオ鑑賞、歌や踊り、買物やドライブ、 洗濯物干しやたたみ、食事の準備や後片付け、畑仕 事や壁面装飾づくり等、楽しみながら継続していける ように工夫している。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日常的な散歩、毎日の食材の調達、買物やドライ ブ、花見などの行楽、公共施設や名所の見学、バス ハイク等を行っている。また、理美容室や温泉セン ター、現役時代の職場訪問、外泊等も家族と協力しな がら個別に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は開錠しており、職員は利用者の様子を見守り ながら対応している。地域の給油所でも、利用者単 独での外出の際の声かけやホームへの問合せ等の協 力があり、運営推進会議にも出席している。家族か らは、防犯対策としてセンサー設置の提案があるなど、 利用者の安全と自由な暮らしの支援に向けて、関係 者の連携体制が何えた。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身 につけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年2回、消防署が立会い、防火、避難訓練(夜間想 定)、消火器の取扱い、併設病院・老健との非常時 対応訓練等を実施している。運営推進会議の中で、 民生委員や地域住民に災害時の協力を働きかけて いる。調査当日は、行政と消防署の緊急点検及び指 導が実施された直後であり、防災対策への再認識と 啓発がなされていた。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をして いる	在籍する2名の栄養士が中心となって、栄養価やバ ランス、利用者の好みや旬の食材等を考慮して献立 を作成している。調理の状態も、利用者の状況に応 じて、キザミ、とろみ等適切に対応している。食事・ 水分摂取量は必要に応じて記録し、家族や医療機 関に適切に情報提供できるように支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	広い敷地のゆったりとした平屋で、玄関回りのプラン ターや敷地内の畑、中庭の草花等、気軽に自然に触れ ることができる。ホーム内も木目調の和風インテリアで統一 され、落ち着きの中にも機能性に優れており、全体的 に広く明るい共用空間となっている。畳スペースや談話 コーナーの設置等、居室以外でもプライベートな空間が確 保されている。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	各居室は入口に軒を構え、室内も約8.5畳と家族の 宿泊も十分な広さである。全室掃き出し窓で、開放感 もある。洋室、和室共に、ベッド、クローゼット、洗面台が 備え付けられており、利用者、家族が相談して、テレビ、 筆筒、冷蔵庫、デスクセットなど馴染みの物を持ち込み、 なるべく自宅に近い雰囲気の中で居心地良く過ごすため の工夫や配慮がなされていた。		

■は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号